

流布本「夫木抄」の本文批判(二)

福田 秀 一

「夫木和歌抄」は、それ自体中世私撰集の一つとして十分研究の対象となるばかりでなく、中世までの和歌史の主として基礎的研究に、少からぬ資料的意義を有すること、既に注意されてゐる通りである。しかるに、今日一般に利用されてゐる二種の活字本は、本文極めて粗悪で、ために多くの学者の徒労や困惑を招いてゐるのは、甚だ遺憾と言はなければならぬ。

即ち、活字本の一つである国書刊行会本は、例言によれば「寛文五年板を底本とし、契沖阿闍梨校本(筆者云、大阪府、立図書館現蔵)、清水浜臣校本(同、国立国会図書館現蔵)、黒川真道氏蔵古写本(同、岡山大学現蔵)等により校訂したといふが、寛文五年板本の素性が明らかでない上に、それを翻刻した際の、誤読・誤植に基づく独自誤謬が少くなく、かつ契沖校本以下の三本による校合

校訂の部分が不明確で、本文の信憑度は極めて低いとしなければならぬ。

又、もう一つの活字本たる校註国歌大系本は、例言及び解題には「片岡寛光が契沖自筆校本並に古写本によつて比較し狩谷望之(椽齋)所蔵本(筆者云、静嘉堂文库現蔵)によつて石橋真国がこれに書入れを為したる学習院蔵本」を底本としたやうに記されてゐるが、実際は巻頭に学習院蔵本(板本の書入本)の写真を掲げただけで、本文は国書刊行会本を再翻刻し、その際に私意をもつて漢字仮名の別を多少改め、若干の誤植を訂した他は国書刊行会本の誤謬をもそのまま襲つてをり、稀には(その数は)実際ごく僅かの新たな誤植もあつて、本文としての価値は前者と幾程の徑庭もない。

大体、「夫木抄」のやうな利用度の高い作品は、信憑し得

る本文が一日も早く一般に提供されるべきで、筆者も約十年來各方面の御好意や先輩・友人諸兄姉の御教示・御援助を得てその何本かを調査或いは瞥見し、事情が許せば遠からず上述の同志と分担・協力してでも善本による翻刻もしくは校本を上梓したいと企ててゐるが、何分大部な作品のこと故、その実現にはまだ多少の時日を要する見込である。

しかしながら、近來とみに盛んな古代・中世和歌史の研究に、一般に利用されてゐる活字本「夫木抄」の本文の粗悪さは、致命的な隘路になつてゐると考へられる。しかも、そこには前述のやうに活字本の独自誤謬が甚だ多いのであるからこれを除いただけでも、本文の信憑度はかなり高められる筈である。そのやうな観点から、筆者が国書刊行会本と板本とを対校して得た異同を以下に表示し、大方の利用に供したい。勿論、国書刊行会本と板本との異なる部分は、すべてが前者の誤謬といふわけではなく、翻刻に際して板本の誤脱を契沖校本その他によつて訂正したり、校合を付したりしたところも多いが、それらは以下の表を一覧すれば自ら明らかであらう。

なほ、以下の表を利用するに當つての留意事項を、簡条書としておく。

一、本表は、前述の通り国書刊行会本と板本とに異同のある箇所を列挙したものであるが、摘出した箇所については、校註国歌大系本をも参照した。校註国歌大系本を全面的に板本と対校しなかつた理由は、一つには同本の本文が前述

のやうに国書刊行会本の再翻刻と認められるからであり、又一つには国書刊行会本の方が遙かに広く利用されてゐると考へられるからである。

二、表は、六段に分ち、それら左の事項を記した。

第一段 頁——国書刊行会本の頁数〔注一〕。

第二段 行——同右の行数。但し印刷文字〔校異は〕のあるところのみを数へる。

第三段

目次 段——同右の段数。

〔本文 部分——これは左の如き略号を用ゐる（なほ、各巻挙した部分と歌の左注として判詞を引用した部分とはこの欄を空欄としておく。）頭の題を列

詞（詞書） 肩（肩注集）

初（初句） 二（二句）

三（三句） 四（四句）

五（五句） 上（上句）

下（下句） 作（作者名）

校（以上のそれらに付された校異―但し

一行の二箇所以上における校異を便宜併せ掲げた場合と、歌の左注として引用されてゐる判詞に付された校異を挙げる場合とは、単に「校」とのみ記しておく。）

全（詞書・歌〔肩注のある場合〕・作者名）

部）

第四段 活字本——国書刊行会本の該当部分。但し校註国歌大系本をも参照した結果、後者が前者のやうになつてゐない時は、*印を付した。

従つて、*印のない箇所は、二種の活字本が、意味に相違を来さない表記の異同はあつても、同一であることを示す。

第五段 板本——寛文五年板本の該当部分〔注2〕。

第六段 備考——本文批判に關する私見があるときは、その要点を簡潔に記した。その場合、活(活字本二種)、国(国書刊行会本)、系(校註国歌大系本)、板(板本)の略号を用ゐた。

なほ、「活ノ誤読」といふのは、活字本の翻刻に際して板本の文字を誤読したといふ意味である。私見が稍々長文に亘る場合は注として各巻の異同の後に記した。

なほ、第四・五段を通じて、「詞」及び「作」においては、便宜前後又は中間を略した時もあり、その場合には省略部分を……をもつて表した。又、私見、私注はすべて角括弧で括つて活字本・板本の記載と區別した。

三、活字本と板本との異同を挙げるに當つて、次のやうな相違はこれを無視した〔注3〕。

1 意味に相違を来さない表記の異同

イ、漢字と仮名の別

ロ、漢字の異体字及び略字・正字の異同——或る語の表

記に際して、本来別箇の漢字が共に通用してゐた場合(例 太宰府)は、これに入らないから、表に記してある。

ハ、仮名の字体の異同

ニ、漢字の宛て方の相違——例、郭公と子規と蜀魂

ホ、仮名遣の相違——「む」・「ん」の相違及び語頭の

「う」・「む」の相違を含む。

ヘ、疊字符号(々・々々)の使用の有無。

ト、濁点・句読点・返点・括弧等の有無(それらは板本にはない)

チ、その他——「梅の花」の「の」の字の有無など。

2 「詞」及び「作」における「同」又は「同イ」の有無〔注4〕。

国書刊行会本の頁の最初の歌の作者が前頁の最後の歌の作者と同一である場合、しばしば板本には記さないその作者名が再掲されてゐるが、かゝる異同もこれに準じて注さない。

3 肩注の中で次の如きものとその反復を示す「同」の字の有無(これらは板本にはない)〔注5〕。

イ、勅撰集名とその部立——板本にも記されてゐるごく僅かの例は、これを特に表示した。

ロ、家集名——単に「家集」と記したものを含む。

ハ、定数歌名——例、「堀百」・「堀後百」。但し「新六」のみは私撰集に準じて扱ひ、有無を注した。

ニ、歌合名

ホ、物語・日記・紀行等の名

但し、歌学書及び私撰集の名（「催馬楽」・「梁塵秘抄」等もそれに準ずる）とその巻次についての肩注の異同は、漏れなく注することに努めた。

4 活字本における文字一字の顛倒（例、一八五）の如き、明白な誤植。

四、今回は、目録並びに巻一から巻九まで（春・夏）の部を表示した。巻十以下も追つて公表する予定である。

〔注1〕 国書刊行会本の頁数を校註国歌大系本の頁数に換算するには、次の表を利用されたい。但し、これは前者の各頁の第一行が後者の何頁に来るかを示したものであるから、前者の第二行以下においては、こゝに示した頁の次の頁になつてゐる場合もある。又、目録は照合検索も容易であるし、後者では、上下の両巻の巻首に分けられてゐる換算表に示すのも煩はしいので、こゝには本文のみを示した。

国書刊行会本の頁数	校註国歌大系本の頁数	国書刊行会本の頁数	校註国歌大系本の頁数
一	三	七	七
二	三	八	八
三	三	九	九
四	三	一〇	一〇
五	三	一一	一一
六	三	一二	一二
七	三	一三	一三
八	三	一四	一四
九	三	一五	一五
一〇	三	一六	一六
一一	三	一七	一七
一二	三	一八	一八
一三	三	一九	一九
一四	三	二〇	二〇
一五	三	二一	二一
一六	三	二二	二二
一七	三	二三	二三
一八	三	二四	二四
一九	三	二五	二五
二〇	三	二六	二六
二一	三	二七	二七
二二	三	二八	二八
二三	三	二九	二九
二四	三	三〇	三〇
二五	三	三一	三一
二六	三	三二	三二
二七	三	三三	三三
二八	三	三四	三四
二九	三	三五	三五
三〇	三	三六	三六
三一	三	三七	三七
三二	三	三八	三八
三三	三	三九	三九
三四	三	四〇	四〇
三五	三	四一	四一
三六	三	四二	四二
三七	三	四三	四三
三八	三	四四	四四
三九	三	四五	四五
四〇	三	四六	四六
四一	三	四七	四七
四二	三	四八	四八
四三	三	四九	四九
四四	三	五〇	五〇
四五	三	五一	五一
四六	三	五二	五二
四七	三	五三	五三
四八	三	五四	五四
四九	三	五五	五五
五〇	三	五六	五六
五一	三	五七	五七
五二	三	五八	五八
五三	三	五九	五九
五四	三	六〇	六〇
五五	三	六一	六一
五六	三	六二	六二
五七	三	六三	六三
五八	三	六四	六四
五九	三	六五	六五
六〇	三	六六	六六
六一	三	六七	六七
六二	三	六八	六八
六三	三	六九	六九
六四	三	七〇	七〇
六五	三	七一	七一
六六	三	七二	七二
六七	三	七三	七三
六八	三	七四	七四
六九	三	七五	七五
七〇	三	七六	七六
七一	三	七七	七七
七二	三	七八	七八
七三	三	七九	七九
七四	三	八〇	八〇
七五	三	八一	八一
七六	三	八二	八二
七七	三	八三	八三
七八	三	八四	八四
七九	三	八五	八五
八〇	三	八六	八六
八一	三	八七	八七
八二	三	八八	八八
八三	三	八九	八九
八四	三	九〇	九〇
八五	三	九一	九一
八六	三	九二	九二
八七	三	九三	九三
八八	三	九四	九四
八九	三	九五	九五
九〇	三	九六	九六
九一	三	九七	九七
九二	三	九八	九八
九三	三	九九	九九
九四	三	一〇〇	一〇〇

一三八	一六〇	六	一	九三	二一〇	八
一六一	〃	七	〃	二一	二二八	九
一六二	一六三	六	〃	二二	二九	〃
一六四	一八九	七	〃	二三	三〇	〃
一九〇	一九一	八	〃	二四	三三	九
一九二	〃	七	〃	二五	三六	〃
〃	〃	〃	〃	二六	三九	〃
〃	〃	〃	〃	二七	四二	〃
〃	〃	〃	〃	二八	四五	〃
〃	〃	〃	〃	二九	四八	〃
〃	〃	〃	〃	三〇	五一	〃
〃	〃	〃	〃	三一	五四	〃
〃	〃	〃	〃	三二	五七	〃
〃	〃	〃	〃	三三	六〇	〃
〃	〃	〃	〃	三四	六三	〃
〃	〃	〃	〃	三五	六六	〃
〃	〃	〃	〃	三六	六九	〃
〃	〃	〃	〃	三七	七二	〃
〃	〃	〃	〃	三八	七五	〃
〃	〃	〃	〃	三九	七八	〃
〃	〃	〃	〃	四〇	八一	〃
〃	〃	〃	〃	四一	八四	〃
〃	〃	〃	〃	四二	八七	〃
〃	〃	〃	〃	四三	九〇	〃
〃	〃	〃	〃	四四	九三	〃
〃	〃	〃	〃	四五	九六	〃
〃	〃	〃	〃	四六	九九	〃
〃	〃	〃	〃	四七	一〇二	〃
〃	〃	〃	〃	四八	一〇五	〃
〃	〃	〃	〃	四九	一〇八	〃
〃	〃	〃	〃	五〇	一一一	〃
〃	〃	〃	〃	五一	一一四	〃
〃	〃	〃	〃	五二	一一七	〃
〃	〃	〃	〃	五三	一二〇	〃
〃	〃	〃	〃	五四	一二三	〃
〃	〃	〃	〃	五五	一二六	〃
〃	〃	〃	〃	五六	一二九	〃
〃	〃	〃	〃	五七	一三二	〃
〃	〃	〃	〃	五八	一三五	〃
〃	〃	〃	〃	五九	一三八	〃
〃	〃	〃	〃	六〇	一四一	〃
〃	〃	〃	〃	六一	一四四	〃
〃	〃	〃	〃	六二	一四七	〃
〃	〃	〃	〃	六三	一五〇	〃
〃	〃	〃	〃	六四	一五三	〃
〃	〃	〃	〃	六五	一五六	〃
〃	〃	〃	〃	六六	一五九	〃
〃	〃	〃	〃	六七	一六二	〃
〃	〃	〃	〃	六八	一六五	〃
〃	〃	〃	〃	六九	一六八	〃
〃	〃	〃	〃	七〇	一七一	〃
〃	〃	〃	〃	七一	一七四	〃
〃	〃	〃	〃	七二	一七七	〃
〃	〃	〃	〃	七三	一八〇	〃
〃	〃	〃	〃	七四	一八三	〃
〃	〃	〃	〃	七五	一八六	〃
〃	〃	〃	〃	七六	一八九	〃
〃	〃	〃	〃	七七	一九二	〃
〃	〃	〃	〃	七八	一九五	〃
〃	〃	〃	〃	七九	一九八	〃
〃	〃	〃	〃	八〇	二〇一	〃
〃	〃	〃	〃	八一	二〇四	〃
〃	〃	〃	〃	八二	二〇七	〃
〃	〃	〃	〃	八三	二一〇	〃
〃	〃	〃	〃	八四	二一三	〃
〃	〃	〃	〃	八五	二一六	〃
〃	〃	〃	〃	八六	二一九	〃
〃	〃	〃	〃	八七	二二二	〃
〃	〃	〃	〃	八八	二二五	〃
〃	〃	〃	〃	八九	二二八	〃
〃	〃	〃	〃	九〇	二三一	〃
〃	〃	〃	〃	九一	二三四	〃
〃	〃	〃	〃	九二	二三七	〃
〃	〃	〃	〃	九三	二四〇	〃
〃	〃	〃	〃	九四	二四三	〃
〃	〃	〃	〃	九五	二四六	〃
〃	〃	〃	〃	九六	二四九	〃
〃	〃	〃	〃	九七	二五二	〃
〃	〃	〃	〃	九八	二五五	〃
〃	〃	〃	〃	九九	二五八	〃
〃	〃	〃	〃	一〇〇	二六一	〃

〔注2〕 筆者の調査によれば、寛文五年正月の刊記を有する板本に、次の三種がある。

(一)「野田庄右衛門板行」とあるもの。〔主な書入本に、三手文庫蔵似閑書入本、静岡

泉某氏蔵守部書入本等がある。〕

(二)「出雲寺文治郎・吉田四郎右衛門・葛西市郎兵衛〔以上三〕」

とあるもの〔前記契沖書入本はこれである。〕

(三)「桂彦右衛門板行」とあるもの〔前記浜臣書入本及び真の国書入本はこれである。〕

しかしながら、これらは全体に同一の板と認められ、細部には埋木等による多少の補訂異同もあるかも知れないが、筆者はそこまで精査してゐないので、今は手許の(一)・(二)の各一本により、その印刷不鮮明の部分は書陵部の(一)の一本を参照した。

〔注3〕 かゝる異同も、筆者の手許には控へてあるから、必要の向は照会されたい。

〔注4〕 これらは、多く浜臣以来の書人によつて補はれたもので、板本に既に存するものは少い。

〔注5〕 これらも、すべて浜臣以来の書人によつて加へられたものである。今回の本稿の範囲でその唯一の例外は、九七頁一行の「新拾遺」といふ肩注だけである。

頁 行 部分 活字本

板 本

備 考

二 四 五校 とぞみるイ

〔ナシ〕

〃 七 詞 ……毎日一首…

〔ナシ〕

〃 一三 肩 六帖

〔ナシ〕

〃 一六 五校 はきイ

〔ナシ〕

三 八 詞注 (京華イ)

〔ナシ〕

〃 一五 五校 たてまつるイ

〔ナシ〕

四 一 二校 たてまつイ

〔ナシ〕

〃 二 詞校 元イ

〔ナシ〕

五 一 初校 はたゝイ

〔ナシ〕

〃 〃 〃 貫之

〔ナシ〕

〃 二 校 人のイ

〔ナシ〕

〃 二・三 作 *同

〔ナシ〕

六 一三 校 侍れ

〔ナシ〕

〃 一五 校 *とイ

〔ナシ〕

七 一 四 雪のけしきの

空のけしきの

〃 五 判者忠良卿イ云東方

判者云 忠良卿イ 東方

〃 一二 三校 こほりイ

〔ナシ〕

〃 一四 詞校 元イ

〔ナシ〕

八 一 四校 やイ

〔ナシ〕

〃 一〇 詞校 院七イ

〔ナシ〕

〃 一三 初 としをへて

をしなへて

活ノ誤植

系ハ「たてまつイ」

国ノ誤植

活ノ誤

活ノ誤読

活ノ誤読

卷二

二五	六	詞	…段上歌合	活ノ誤読カ
二七	二	三校	さい	
〃	〃	〃	*民部卿為家卿	
〃	〃	〃	新六	
三〇	四	詞	…碓の札に…	活ノ誤
三一	一	肩	万代春上	
〃	二	作校	仲イ	
〃	三	作校	同イ	
〃	一三	詞	雪中鶯イ	

〔注1〕 「文」ノ字、板本ニオイテハ、稍々「久」ニ近ケレド、ナホ「久」ト認ムベキニモアラズ、前後ヨリ「文」ト認ムベキモノノ
思ハル。

一六	一〇	五	*若葉つむらん	わかなつむらん	国ノ誤植
一七	五	五	*わか葉つむらん	若葉つむらん	国ノ誤植カ
一八	一一	詞	…基政務会…	…基政家会…	活ノ誤植カ
一九	一一	四	すみにし人や	すみこし人や	
〃	一三	二	*わか葉あさると	若葉あさると	国ノ誤植カ
二〇	七	詞	*若保三年…	建保三年…	国ノ誤植
二二	三	肩	現六		
〃	一五	三校	*とイ		
二三	一〇	三校	*はい		
二四	六	校	たい・をイ・さい		

〔ナシ〕
〔ナシ〕
〔ナシ〕
〔ナシ〕
〔ナシ〕
〔ナシ〕

四二

一 歌

〔アリ〕

〔ナシ〕

〔注2〕

〃

四 初

*雪消ぬ

雪消ぬ

国ノ誤読カ

〃

一二 詞

…陽明門御…

陽明門院…

活ノ誤植カ

〃

一四 詞校

永イ

〔ナシ〕

四三

三 詞

同日暖…

…日暖

活ノ衍カ

〃

〃 詞校

閑カ

〔ナシ〕

〃

九 肩

万代雜二

〔ナシ〕

〃

一二 詞校

若水イ

〔ナシ〕

四四

一〇 詞

貞摩三年…

貞广三年…

活ノ誤読〔注1〕

〔注1〕 「応」ノ字、板本ニ「マダレ」ノミトス。活本ニ翻刻スルニ当リ、コレヲ読ミ誤レルモノト思ハル。
〔注2〕 板本、コノ歌ノ詞書ト作者名トガ丁ノ表ノ末行ニアリ、ソノ裏ニ至リテコノ歌ヲ記スヲ忘レ、次ノ歌ノ詞書・作者名ニトヘル

モノト思ハル。

卷三

四七

六 肩

六帖

〔ナシ〕

〃

〃 校

もイ・ヤイ・ふるイ

〔ナシ〕

〃

一〇 初

あさこほり

あさちかり

四八

三 三校

*とイ

〔ナシ〕

〃

九 二 位卿

二位卿

公任卿

活ノ誤読カ

〃

一二 下校

うらみて…さりけむイ

〔ナシ〕

〃

〃 作校

詠イ

〔ナシ〕

〃

一五 詞校

（にてくたるにイ

〔ナシ〕

〃

〃 校

しらぬイ・をりイ・こそイ
・けれイ

〔ナシ〕

板ノ脱落カ

六〇	〃	〃	〃	〃	〃	五八	〃	五七	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	五六	〃	〃	〃	〃	〃	五五
一〇	一六	一四	一三	一二	一一	一〇	〃	一三	一六	一三	一二	一〇	〃	九	四	二	二	八	六	五	〃	四
二	作	肩	肩	肩	肩	二校	二校	詞校	初校	初校	詞校	詞校	初校	詞校	詞校	肩	肩	作	二校	校	五校	初
きみの御代とは	皇太后宮大夫俊成 文集御百首：	現存六	新六ノ六 現存六	万十	〔ナシ〕	柳イ	イセイ	二イ	かイ	刑部卿頼輔イ	歌イ	首イ	ふるイ	院イ	いふにさりける	万代	万代	：作本兼輔卿云々	へ家	のほ万・も万・もえ万	よしもかも万	わかせこの
君か御代とは	皇太后宮大夫俊成卿	同	新六	同	〔ナシ〕	〔ナシ〕	〔ナシ〕	〔ナシ〕	〔ナシ〕	刑部卿	〔ナシ〕	〔ナシ〕	〔ナシ〕	〔ナシ〕	いふにさりけり	〔ナシ〕	〔ナシ〕	：他本兼輔卿云々	〔ナシ〕	〔ナシ〕	〔ナシ〕	わかせこか
活ノ誤読	活ノ誤	〃	〃	〃	板ノ誤カ	〃	〃	〃	〃	板ノ脱落カ	〃	〃	〃	〃	活ノ誤読カ	〃	〃	活ノ誤読	〃	〃	〃	活ノ誤読

卷四

七五 // 一五 詞 久応元年…
九 詞 文永九年…燕をイ

〔ナシ〕 文応元年…

七七 一 詞 歌集

〔ナシ〕 家集

活ノ誤

七八 二 五校 かなイ

〔ナシ〕

// 四 初校 はイ

〔ナシ〕

// 八 五 霞わたれる

霞わたれり

活ノ誤読カ〔注1〕

// 一〇 五校 やさくらんイ

〔ナシ〕

// 一一 作校 朝臣イ

〔ナシ〕

// 一七 肩 万十七

十七

〔注2〕

七九 二 肩 菅万

〔ナシ〕

// 二 二校 かすみイ

〔ナシ〕

// 三 肩 六帖

〔ナシ〕

// 四 二校 山をイ

〔ナシ〕

// 四 三校 山をイ

〔ナシ〕

// 七 詞校 文イ 久永二年

〔ナシ〕 久永二年

板ノ誤

八〇 // 八 校 *の色イ

〔ナシ〕

八二 一六 四 はるもちとせの

〔ナシ〕 花もちとせの

活ノ誤植

八三 五 初校 山イ

〔ナシ〕

八四 二 二校 のイ

〔ナシ〕

// 三 三校 にイ

〔ナシ〕

// 四 三 しきしまの

敷嶋や

活ノ誤植カ

九三 一 肩

新六一
*云也

六
云々

国ノ誤読カ

九四 五 詞

*…住たし社歌合…
式乾門院御製

…住よし社哥合…
式乾門院御匣

国ノ誤植
活ノ誤植

〃 七 二校

にみイ

〔ナシ〕

系ハ「卿親玉イ」トアリ

九六 一〇 作校

卿親王イ

〔ナシ〕

〔ナシ〕

〃 一二 作

知徳門院御製

知徳門院御哥

〔ナシ〕

〃 一三 作校

卿親王イ

〔ナシ〕

〔ナシ〕

九七 一四 三校

*もイ
新拾遺春下

新拾遺

〔注一〕

〃 一 四 五

花に見えけり

花に見えける

国ノ誤読

九八 二 五

*おそくして
あるもなつかし

おほくして
色もなつかし

活ノ誤読

九九 六 六

*…太政大臣首家歌合
百廿八首韻歌

…太政大臣家哥合
百廿八首韻哥

国ノ衍
活ノ脱落カ

一〇〇 一 七 詞

…百首歌眺落花
定家卿会…

…百首歌庭眺落花
定家卿家会…

活ノ脱落カ
活ノ誤読

〃 一 六 詞

久集百首花落城中地

文集百首花落城中地春深江上
天

活ノ誤読、但シ系ハ「文集…城中地」トアリ

〃 一 四 肩

袋冊子

〔ナシ〕

〃 一 四 四

風笑なくして^{シイ}

風笑なくして

系ハ「シイ」ヲ五句ノ初ノ「ち」ニ付ス、或イハ是カ

〃 一 五 五

いかゝえんせん

いかゝ要せん

活ノ誤読カ

〃 一 四 二

袖中抄

〔ナシ〕

活ノ誤読カ

〃 一 四 二

かすみのうらは

かすみのうらに

活ノ誤読カ

一〇二 一五 詞 *仙洞五十卷御歌

一〇三 八 詞 石清水若イ參宮歌合

〃 〃 一 詞 同二年百首

一〇四 六 詞 弘安元年百家

一〇六 五 初校 のうちイ

〃 〃 一 初 春雨の

一〇七 一六 五 *すむふあさしも

一〇八 一 肩 新六ノ六

〃 〃 二 肩 同 同

〃 〃 三 肩 同 同

一一〇 四 詞 ……風景好香杉…
しるしはかりのイ

〃 〃 九 二校

〔注1〕 板本、「り」・「る」ノイヅレトスベキカ明ラカナザルコト多ケレド、恐ラクハコ、ニ表示セルゴトク認ムベキモノト思ハ
ル。

〔注2〕 手許ノ板本二部、共ニ「十七」トノミアレド、コノ二本、印刷必ズシモ鮮明ナラズ、或イハ元来「万十七」トアリ、右二本ガ
印刷ノ際ニ上方ヲ欠キンカ。

卷五

一一一 六 肩 六帖

〃 〃 八 肩 〔ナシ〕

〃 〃 九 詞 太神宮五百首…

一一二 一三 四 なみのあやまに

一一三 三 三 春の雁

仙洞五十首御哥 国ノ誤読カ

石清水參宮哥合 板ノ誤カ

〔ナシ〕

弘安元年百首 活ノ誤植

〔ナシ〕

春雨の 活ノ誤植カ

結ふ朝霜 国ノ誤植

〔ナシ〕

〔ナシ〕

……風景好香袂…

〔ナシ〕

〔ナシ〕

万十九

太神宮百首… 活ノ誤読

なみのあやまにめイ

春の鴈の 活ノ脱落

一四	六	五	みゆるりかね	活ノ誤植
一一六	六	二	空にきえ行	活ノ誤謔カ
一一九	九	五	*日は也にけり	板ガ正シ
一一〇	七	二校	いまい	
〃	九	肩	万	
〃	〃	二校	つゝし	一点つゝし
〃	〃	下校	君には…よわぬともよし万	万十二ハ君には…よりぬともよし
〃	〃	〃	…野五首中	…野五首中
一一一	一三	詞	*すい	〔ナシ〕
〃	五	五校	つくそい	〔ナシ〕
〃	七	二校	新六二	〔ナシ〕
〃	一三	肩	新六	〔ナシ〕
一二四	三	肩	新六に	〔ナシ〕
一二五	五	肩	〔ナシ〕	
〃	一七	肩	万十九	
一二六	一	肩	万代	百代
〃	〃	肩	万代	百代
一二七	八	初校	霧イ	万ニハ霧
〃	〃	四校	三舟の山に万	万ニハ三舟の山に
〃	〃	五校	わたるみゆ万	万ニハわたるみゆ
〃	九	作	法観王澄覚	法
〃	一六	作	待賢門院堀川	待賢門院
一二八	五	四校	られい	〔ナシ〕
〃	六	四校	闇イ	〔ナシ〕
〃	一	五	夜のふけぬとに <small>きイ</small>	夜のふけぬとに <small>き</small>
				板ハ衍カ
				板ハ誤カ
				〃
				板ノ脱落カ
				〃
				活ノ誤植

一四六	三	五校	判者知家卿云	〔ナシ〕	活ノ誤読カ
〃	六	五校	かさしイ	〔ナシ〕	
〃	一二	四	松にたくへる	松にたくへる	活ノ誤読カ
〃	一五	五校	さくイ	〔ナシ〕	
一四七	九	作	*よみととしらず	よみひとしらず	活ノ誤読カ
〃	一一	詞校	祐イ	〔ナシ〕	活ノ誤読カ
〃	一二	作		〔順次、次ノ歌ノ作者トス〕	
〃	一三	作		〔ナク、久米広綱トス〕	
〃	一四	作	久米繼磨	任のとき	活ノ誤読カ
〃	一五	詞	任のとき	〔ナシ〕	活ノ誤読カ
〃	一六	肩	万十	〔ナシ〕	
〃	一七	初	吹かゝる	吹かゝる	活ノ誤読カ
一四八	四	詞	堀川院御所百首	堀川院御所百首	〃
〃	一三	詞	うち出して	うちこして	
一四九	五	作	家集	〔ナシ〕	
〃	一〇	作	為実朝臣	為実卿	板ノ誤カ
〃	一三	作	三位入道左大臣	三位入道左大臣	〃
〃	一五	作	藤正方朝臣	藤正方朝臣	活ノ脱落
一五〇	八	詞	千五百番の歌	千五百番の哥合	
〃	一	肩	(浜木綿敷)	〔ナシ〕	
一五一	一三	詞	女御嶺子女王家歌合	女御徽子女王家歌合藤	活ノ誤読カ
〃	〃	作	藤忠見	忠見	〃
〃	一五	肩	新六ノ六	新六	
一五二	五	肩	新六ノ六	新六	
一五三	三	四	ふた葉をかけて	ふた季をかけて	活ノ誤植

一五九 一四 作 大僧正行高 慶玉

大僧正行尊

〔注1〕

〔注1〕 「尊」ノ字、「高」ニモ似テ、稍々分明ナラザレド、ナホ「尊」トスベキモノノゴトシ。

卷七

一六一

四 二

菖蒲附蓬

菖蒲

〔注1〕

一六二

七 二

そめにしそでの

そめこし袖の

活ノ誤読カ

一六三

一五 五

〔ナシ新後拾夏トノミ〕
四月一日羹氷水

万代

活ノ誤読カ

一六四

一七 六

宝治二年百首歌
：撰政家百首歌

四月一日奏氷水
宝治二年百首歌
：撰政家百首歌

板ノ誤カ 〔注2〕

一六五

一〇 六

宝治二年百首歌
百首御歌イ

宝治二年百首歌
百首御歌イ

活ノ誤読カ 〔注2〕

一六六

一三 一

このころに

〔ナシ〕

活ノ誤植カ

一六七

一四 七

なほものさらす

この比は

活ノ誤植カ

一六八

一六 七

あまイ

〔ナシ〕

一六八

一〇 二

題不知新深窓

〔ナシ〕

一六八

八 八

家集歌林

〔ナシ〕

一六八

六 六

卯花を扶桑

卯花を扶桑

一六八

二 二

太宰大貳高遠卿

太宰大貳高遠卿

一六八

八 八

家集歌林

〔ナシ〕

一六八

一〇 二

題不知新深窓

〔ナシ〕

一六八

八 八

家集歌林

〔ナシ〕

一六八

一〇 二

題不知新深窓

〔ナシ〕

一六八

二 二

肩

〔ナシ〕

一七九 三 詞

：御歌合鎌倉
うすのたまえを

〃 〃 二

はたゝい

一八〇 一七 五

取もやられぬ
文治十八年：

一八一 一六 一

六一

一八二 一〇 四

またつくりえに
同歌合園中蓬

一八三 一一 一

＊：判者仲実朝臣云：
＊の家

一八四 一四 八

和泉式部
：団扇忘暫晨月

一八六 〃 七

＊開イ
從三位家隆卿

〃 〃 〃

新六一
ねをかさねはや

一八七 一〇 〃

大藏卿隆輔
す万

一八八 二 〇

占部広方
＊新六ノ六

一八九 一三 七

嘉元二年百首：
土門御院御製

〃 〃 〃

大藏卿有家
中務卿親王家歌合

：御哥合 鎌倉

うすのたまかす

〔ナシ〕

とりもやられぬ

文治六年：

〔ナシ〕

たまつくりえに

同哥合園中蓬

：判者仲実朝臣云

〔ナシ〕

泉式部

：団扇忘暫晨月

〔ナシ〕

從二位家隆卿

〔ナシ〕

ねをかさねはや

大藏卿隆輔

〔ナシ〕

古部広方

〔ナシ〕

嘉元二年百首：

土門御院御製

大藏卿有家卿
中務卿親王家哥

活ノ誤読カ

〃

活ノ誤植、系ハ「又つくりえに」

「蓬」ノ位置、板ハ不可カ

国ガ正カ

活ノ誤植カ

活ノ誤植カ

板ノ誤カ

〔注5〕

〔注6〕

活ノ誤読

活ノ誤植

活ノ脱落カ

板ノ脱落カ

一九〇 七・八 肩 作 大藏卿隆輔
新六ノ六

大藏卿隆輔
新六々

〔注5〕

〔注1〕 本文ノ部立ニオイテハ「昌蒲」トノミアリ。

〔注2〕 板本ニ「：百首首哥」トアルハ、「首」ノ一字ガ衍ナルゴトクナレドモ、実ハサニアラズシテ、ムシロ「：百首首夏」ノ誤記

乃至誤刻ナランカト思ハル。ナホ、三箇所共、「首」ノ字ハ行書・草書各一字トセリ。

〔注3〕 板本、「禁」ノ字ニ紛レハナケレド、実ハ小字ニテ「林葉」トアルベキカ。

〔注4〕 卷四ノ〔注1〕ニ同シ。

〔注5〕 「轉」ノ字、板本ニテハ字体コレニ紛レナケレド、本来ハ「博」トスベキモノニテ、且ツコノ両字ノ草体ハ紛レヤスキコトアリ。

〔注6〕 板本ノ「古」ノ字、稍々「占」ニ近ケレド、ナホ字体ハ「古」ト見ザルヲ得ズ。

卷八

一九二 三 詞 *：老若五十首歌合

九 肩 石間抄イ

一〇 肩 歌苑抄イ

一一 肩 万十

一九三 五 肩 万八

六 二校 一点ひさし

一〇 作 清原朝臣

一二 詞 嘉元二年百首：

一三 詞 新六一

一七 詞 肩 〔ナシ〕

弘長元年百首郭公

：老若五十首歌合

〔ナシ〕

〔ナシ〕

〔ナシ〕

同八

一点さひし

清原朝臣

嘉元二年百首：

六帖題

新六一

弘長元年百首

国ノ誤植

活ノ誤植

板ノ誤カ

活ノ誤読

一九五	一	二校	をかイ	〔ナシ〕	
〃	八	作	太宰大式高遠卿	大宰大式高遠卿	
〃	一七	詞	いるまの…	はりまの…	活ノ誤読
一九六	三	詞	家集桑門	家集 <small>桑門</small>	
〃	〃	作	光俊朝臣	〔ナシ〕	板ノ脱落カ
〃	八	肩	百首歌現存六	〔ナシ〕	
〃	一〇	肩	石川	石門	〔注一〕
一九七	四	作	清原朝臣 <small>輔イ</small>	清原朝臣	板ノ誤カ
〃	一〇	詞	御集旅泊郭公	家集旅泊郭公	活ノ誤植
〃	一六	四	はやうちとけぬ	はやうちとけぬ	活ノ誤読カ
一九八	四	四	ましてこかねの	ましてこゝみの <small>たりイ</small>	
〃	七	二	もりのあたりの	もりのありすの	
〃	八	詞	御集古来歌合	御集 <small>古来歌合</small>	
一九九	八	詞	顕季かつらの家にて…	顕季かつら家にて…	
二〇〇	五	肩	新六ノ六	〔ナシ〕	国ノ誤植
〃	〃	作	*正三位和家卿	正三位和家卿	
〃	二	詞	後鳥羽院の御影の前にて…	後鳥羽院の御影の御前にて…	活ノ脱落カ
二〇一	七	二	まつら佐保姫	まつらさよひめ	活ノ誤
〃	一七	作	法橋顕照	法橋顕照	
二〇二	二	作	源頼国朝臣	源頼国朝臣	活ノ誤読カ
二〇三	一	四	*とをさとのほゝ	とをさとのゝ	国ノ誤
〃	七	作	太宰大式重家卿	大宰大式重家卿	
二〇五	三	詞	前大僧正源惠泉 <small>察イ</small> …	前大僧正源惠泉…	板ノ誤
〃	五	詞	百首鏡山敷	〔ナシ〕	

〃
 二二八 〃
 一〇 八 一五 一三 一一 八 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
 〇 三 初校 肩 四 肩 校 肩 肩 作 肩 肩 肩 五校 二 作 四 作 〃 九 八 六
 作 作 肩 三 校 肩 四 肩 校 肩 肩 作 肩 肩 五校 二 作 四 作 〃 九 八 六
 神祇伯頭仲卿 太皇太后宮肥後 一字抄 かつくらに ねもころ人に 万八 待といふへしや 万七 万七 新六ノ六 一字抄イ 法橋顯照 五六 新六一 本ノマ、 雪氣の水や 後京極撰政 船をそもやふ 前關白太政大臣 同濱木 同濱木 五十首歌雲葉

神祇伯頭仲正 太皇太后宮肥後 〔ナシ〕 かつくらに 〔ナシ〕 ねもころ人に 新六 〔ナシ〕 〔ナシ〕 つまといふへしや 〔ナシ〕 〔ナシ〕 新六 五六 万代 法橋顯照 〔ナシ〕 新六 五六 万代 法橋顯照 〔ナシ〕 新六 五六 万代 法橋顯照 〔ナシ〕 新六 五六 万代 法橋顯照

板ノ誤カ 〃
 活ノ誤読

〃	一〇	四	祓ひすてつる	はらへすてつる	
〃	一四	作	後鳥羽院御別製	後鳥羽院御製	活ノ誤読
〃	一七	作	皇太后宮大夫俊成卿	俊成卿	
二六三	一〇	五	人にしらすや	人はしらすや	活ノ誤植カ
〃	一二	肩	六	〔ナシ〕	
二六四	一六	詞	文治十一年 ^{永イ} ：	文治十一年：	板ノ誤カ
〃	九	詞	*：六月荒和	：六月荒和祓	国ノ脱落
二六五	六	初	わかたゝみ	わかたたくた	板ノ誤カ

〔注1〕 卷四ノ〔注1〕ニ同ジ。

〔注2〕 板本「実」ノ字、稍々「美」ニ近ク、不分明ナリトイヘドモ、ナホ「実」トスベキモノナラン。

〔注3〕 管見ニ入レル写本ハ皆コノ二行ヲ完全ニ逆順トセリ、板本ハコノ二首ノ順ヲ改メントシテ詞書ノミ移シ落セルモノカ。

追記 印刷上の都合により、「活字本」・「板本」の欄において、漢字の正字や異体字を当用字体に改めたものが

ある。